

教育課程の改善によるすべての生徒にとって居心地の良い学校づくり

—生徒の負担軽減と魅力ある活動を通じた不登校対策—

提案者 那珂川町立馬頭中学校 教諭 佐々 直哉

1. 課題設定

- 本校の課題は不登校と学力向上である、背景には様々な要因が存在している
- これらの課題に対して、一律での対応は限界がある、特に不登校の未然防止と不適応後のつながりの継続は重要である
- 教員個々の対応ではなく、全校体制で対応することが必要であるため、教育課程の改善から対応を考えていく
- 不登校については、生徒個人の問題としてではなく、学校の組織・環境の課題として捉え、対応する

2. 提案内容

1. 提案趣旨

- 学校危機管理の視点から、不登校への対応を教育課程のあらゆる段階から再検討する
- 「居心地の良い、安心して通える学校」、「丁寧に支援するシステム」を構築する
- 時間割、少人数・習熟度別授業、行事の精選、地域協働、教員負担軽減、外部連携等
- 生徒が通いたくなる魅力ある教育活動を、生徒や教員の負担を考慮しながら実施する
- 登校のみを目的とせず、継続的な関わりを考える

2. 日課・時間割の工夫

- 複数あった日課を整理し、生徒の生活のリズムを作る
- 時間割の入れ替えを毎週行うことで（固定の時間割は無し）、教科担任による指導を保証する
- 後期は週 28 時間とし、水曜日を半日とする、生徒と教員双方の負担を軽減する
- 長期休暇明けはスロースタート（午後授業カット）を採用している
- 学力・体力向上のため、2 年生数学年間+35 時間、全学年体育年間+10 時間を実施する
- 上記を実施しつつ、年間授業時数を 1085 以下とすることで、生徒の負担を軽減する

3. 校内教育支援センターと学習支援の充実、生徒主体の学校作り

- 校内教育支援センター「松が峰サポートルーム」で段階的な別室登校を実施する
- パーテーション・ソファ設置で安心感ある空間を作る
- 学習面の配慮として、数学で習熟度別授業・英語で ALT による TT、国・社・理でも可能な限り TT の体制をとり、学習面の不安に対応する

4. 行事と部活動の見直し、生徒主体の学校作り

- より意義ある活動を目指して行事を精選する
- 部活動時間終了時刻の繰り上げ、水曜原則休止、夏期の時期・時間帯制限を実施する
- 部活動において、外部指導員や他校との合同活動を実施し、生徒の活躍の場を確保する
- 各行事を生徒主体で運営する、生徒心得（校則）の見直しを生徒会主体で実施する
- 猛暑期には体操服登校とするなど柔軟に対応する

5. 地域連携

- 参加型地域活動（小中高合同町内清掃活動・施設見学・ボランティアなど）で成功体験を提供する
- 地域を学ぶ、関わる活動について、総合などを中心に、学年別に段階的な計画を立てて実施する
- 地域や町職員による講話、本校卒業生との対話などを通じて地域とのつながりを強化する

6. 教員の働き方を見直し、生徒の支援にゆとりを持たせる

- 朝の打ち合わせを週2回に限定、ICTを活用し情報の共有を効率化する
- 水曜午後は職員会議や研修に充てる、教員のデスクワークの時間や休養時間を確保する
- 勤怠管理システムの採用による出勤簿カード化、押印の廃止を実現、生徒の欠席連絡のフォーム利用などで事務負担を軽減する

7. 保護者・外部機関との連携

- 三者懇談・教育相談の質の向上を図る
- 自由参観や学期末参観で保護者との信頼関係を強化する
- スクールカウンセラー・ソーシャルワーカー・町子育て支援課等との連携体制を整備する

3. 成果と課題、おわりに

成果

- 不登校傾向生徒への関わりについて、個々の生徒の実情に応じた対応が実施できている
- サポートルームの効果的な活用、生徒への支援が充実し、様々な対応へ理解が根付いた
- 不登校生や保護者と教職員（学校）との信頼関係が構築されている

課題

- 生徒への様々な対応による、教員の負担がまだある
- サポートルームの利用のルール作り
- 保護者・地域とのさらなる情報や対応策の共有の必要性

おわりに

- 不登校支援は長期的なもので、中学校全般にわたって関わりが必要である
- 個々の生徒に対してより良い対応を考え続けながら、柔軟に環境を整える姿勢が重要である
- 職員全員で協力し、すべての生徒に居場所を提供し続ける姿勢が求められる
- 段階的な関わりの継続を通じて、生徒や保護者と信頼関係を構築していく
- 通いたい、戻りたい、関わりがある、生徒の居場所としての学校づくりを継続していく

ICT機器を活用した不登校支援 ～学びの多様化学校（不登校特例校）の取組～

岐阜県学校職員組合 事務局次長 岡田 哲也

ありのままの君を受け入れる学校の挑戦
～どこでも学ぶことができる授業形態の多様化～



岐阜市立草潤中学校

登校スタイルの選択

50分授業	月	火	水	木	金
始業 9:30					
1 9:35~9:45	Onlineによるホームアップ				
2 9:55~10:45	家庭学習	家庭学習	家庭学習	家庭学習	家庭学習
3 10:55~11:45	家庭学習	家庭学習	家庭学習	家庭学習	家庭学習
登校 11:50~12:15	私は、基本は、家庭で学習！ Onlineや電話で相談するよ。				
登校 12:15~12:30					
4 12:30~13:20	家庭学習	家庭学習	家庭学習	家庭学習	家庭学習
5 13:30~14:20	Online	Online	Online	Online	Online
6 14:25~14:35	Onlineによるメールダウン				
終業 14:35	2週間に1度程度、学習相談として登校				

50分授業	月	火	水	木	金
始業 9:30					
1 9:35~9:45	ホームアップ	ホームアップ	ホームアップ	ホームアップ	ホームアップ
2 9:55~10:45	社会	数学	理科	英語	英語
3 10:55~11:45	英語	理科	英語	社会	数学
登校 11:50~12:15	早く帰るよ！ 放課後の個別の活動や相談に乗ってもらうよ！				
登校 12:15~12:30					
4 12:30~13:20	国語	英語	数学	総合	英語
5 13:30~14:20	体育	英語	体育	総合	体育
6 14:25~14:35	メールダウン	メールダウン	メールダウン	メールダウン	メールダウン
終業 14:35	原則として毎日登校				

個別担任制



生徒の4段階

- ①【休む】 まずは学校に安心して通うことができるようになる時期
- ②【見つける】 今の自分に何ができそうかを見つけようとする時期
- ③【試みる】 自分にできそうなことを試そうとする時期
- ④【挑む】 さらに自分を伸ばそうと何かにチャレンジしようとする時期

開校後の様子と課題

心に深い傷を受けている状態で
何かをやらせたりいろいろと
求めたりすることは
逆効果



生徒が動くまで待つ！

ギフトドルームの設定



- ▶ 計算ドリル
- ▶ 漢字ドリル
- ▶ 英検や漢字検定の参考書
- ▶ 中学校の5教科の参考書

自発的に
学習

ICTの活用について



Microsoft Teamsで授業配信



Microsoft Teamsで授業配信



ICTを活用することで、 どこでも授業が受けられる

良い点

- ▶ 登校することなく学習できる
- ▶ 教室以外の場所で学習できる
- ▶ 他の生徒の目を気にしなくてもよい
- ▶ わからなくても当てられない安心感

問題点

- ▶ わからないところがあっても質問しにくい
 - ▶ ノートの提出ができない、遅い
- (教師として)
- ▶ 理解度が把握できない

アプリの活用による双方向のつながり

OneNote



ロイロノート



実践報告 1

ICTを活用した、個の特性に応じた支援の工夫

ICTを活用した、 個の特性に応じた支援の工夫

- ▶ 授業のオンライン配信を全校に拡大
- ▶ 復習のために下の学年に参加
- ▶ 1年生で行われた理科の実験に、2、3年生の生徒が参加
- ▶ 実験することによって、新たな理解を得られた



ICTを活用した、 個の特性に応じた支援の工夫



Microsoft OneNoteを活用した 個の特性に応じた支援

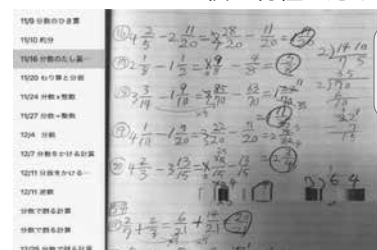
生徒A

Eラーニングルーム

- ▶ 周りに多くの生徒がいる環境が合わず1人で学習
- ▶ 小学校の計算ドリルに取り組む
- ▶ 1か月を過ぎた頃、ギフテッドルームで学習を行うようになった



Microsoft OneNoteを活用した 個の特性に応じた支援



ギフテッドルームだと
先生に教えてもらう
ことができる



ロイロノートを活用した 個の特性に応じた支援

生徒B

- ▶ 登校していてもオンラインで参加
- ▶ 図書室のハンモックから
- ▶ イヤホンとタッチペン



ロイロノートを活用した 個の特性に応じた支援



実践報告 2

教育計画の工夫

教育計画の工夫

計画表

計画表	計画表
1. 計画表	1. 計画表
2. 計画表	2. 計画表
3. 計画表	3. 計画表
4. 計画表	4. 計画表
5. 計画表	5. 計画表
6. 計画表	6. 計画表
7. 計画表	7. 計画表
8. 計画表	8. 計画表
9. 計画表	9. 計画表
10. 計画表	10. 計画表

問題集



計画ドリルの内容表の作成

計画ドリルの内容表	計画ドリルの内容表
4月 1. 2けた×1けた÷2けたの計算	52×4 70÷2
4月 2. 2けた×1けた÷2けたの計算 (両方あり)	73×2 88÷5
4月 3. 2けた×1けたの計算	27×2 82÷4
4月 4. 2けた×1けた÷2けたの計算	408÷2 342÷2
4月 5. 2けた×1けた÷2けたの計算 (両方あり)	347×6 273÷2
4月 6. 2けた×1けた÷2けたの計算 (両方あり)	821×2 403×4 214÷2

実践報告 3

校内連携の在り方

生徒の学習状況

授業への取り組み
参加状況は
個々によって違う

生徒の学習状況	生徒の学習状況
1. 生徒の学習状況	1. 生徒の学習状況
2. 生徒の学習状況	2. 生徒の学習状況
3. 生徒の学習状況	3. 生徒の学習状況
4. 生徒の学習状況	4. 生徒の学習状況
5. 生徒の学習状況	5. 生徒の学習状況
6. 生徒の学習状況	6. 生徒の学習状況
7. 生徒の学習状況	7. 生徒の学習状況
8. 生徒の学習状況	8. 生徒の学習状況
9. 生徒の学習状況	9. 生徒の学習状況
10. 生徒の学習状況	10. 生徒の学習状況

今後の課題

学習に対する不安感の 払拭に向けた取り組み



個に応じた学習時間の確保



草潤サポートについて

学習ルーム



コミュニケーションルーム



岐阜市の取り組み

岐阜市の不登校支援

